

エンパワーするNGO



特集：子どもと家族のつといの場



ちいきにひろがれ ふくしのわ

わいわい通信

Vol.11

2008.3

神戸 YWCA 地域活動委員会ニュースレター



も く じ

組織図・ボランティア募集	3
特集 子どもと家族のつどいの場	4
ちゃいやあらんどの活動	4
ちゃいやあらんどでボランティアとしてかかわって	5
わいわいランチの現在とこれからの課題	11
各グループ活動紹介「活動近況と参加者雑感」	12
あの人に会いたい！ 村川奈津美さん	16
おしらせ	16



はじめに

神戸YWCA地域活動委員会は、1995年の阪神・淡路大震災を契機に神戸YWCAの中に生まれた9つのボランティアグループの横の連携を深め、神戸YWCAの考える地域福祉～ひとりひとりが存在そのものを大切にされる地域社会作り～を実現するために活動している委員会です。

各グループの活動について会員内で情報を共有し協力し合あうだけでなく、神戸YWCAにつながるボランティア同士の交流、内外への各活動の情報の発信などもおこなっています。



組 織 図 ・ 活 動 紹 介

一緒に活動して下さる方を大募集しています!!!

グループ名	活動紹介・ひとこと	活動日
高齢者のサポート		
わいわいランチ	一人暮らしの高齢者世帯に手作りのお弁当をお届けしています。盛りつけや配達など得意なところで力を発揮してください。	毎週月 ～金曜日 9:30～
わいわい亭	高齢者の方対象の会食サービスです。食事の準備や話し相手など、皆さんと楽しいひとときを過ごしてください。	毎週水曜日 10:30～ 14:00
わいわいデイルーム	食べて語って歌って手を動かします。お話やゲーム、手芸など、楽しく活動しています。	毎週火曜日 11:00～ 15:00
弓の木 歌の集い	灘区弓ノ木南市営住宅の高齢者位よる歌の集い。	
子どもと家族のサポート		
そらとぶうさぎ	しょうがいをもつ子どもと家族のためのフリースペース。みんなで遊んだり、お出かけしたりしています。ぜひ一度きてみませんか？	毎月1回 土曜日
子育て支援プロジェクト	子育て中のお母さん、お父さんそしてその子どもを社会のみんなで支援していきます。	
ちやいやあらんど	子どもと家族のためのフリースペース。つくろう会や音楽セッションもあります。ぜひ参加してください。	毎週木曜日 11:00～ 15:00
野宿している人の支援		
夜回り準備会	野宿している人の支援。灘区・東灘区で野宿している人を訪問してお話をうかがっています。参加してみませんか？	第2・第4 土曜日 18:00～

YWCA (Young Women's Christian Association) は、キリスト教を基盤に世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。1855 年英国で始まり、今では日本を含み 120 あまりの国と地域で、約 2500 万人の女性たちが活動しています。

特集・子どもと家族のつどいの場

ちやいやあらんどの活動

「ちやいやあらんど」は、神戸YWCAが行っている子育て支援活動の一つです。毎週木曜日、神戸市中央区坂口通のYWCA分室を11時に開放し、子育て中の親子が憩える場を提供しています。ここでは、ちやいやあらんどの活動の様子を紹介します。

ふだんの活動



フリースペース

毎週木曜日 11:00～15:30

ちやいやあらんどは、毎週木曜日朝11:00にオープン。事前予約、利用料はいりません。子育て中の親子ならだれでも遊びに来てもらってOK!助成金をいただいて買ったり、先輩パパ・ママからいただいたりしたおもちゃを用意しています。(写真は、フリースペースにあるおもちゃ棚です)



ティアや他の親子と隣の部屋で遊んだりしています。わいわい言いながらみんなで作るのは日常と違って楽しいです。(写真は、2008年3月のつくるう会で作った莓大福です)



音楽セッション

毎月1回(原則第4木曜日) 14:00～

ピアノの先生によるキーボードの演奏に合わせて、子どもたちもタンバリン・すず・カスタネットを手に持ち、思い思いにリズムをとります(参加費300円)。「さんぽ」「おもちゃのチャチャチャ」などを大人が唄うと子どもたちからも♪チャチャチャ～♪と聞こえてきます。

(写真は、2007年7月の音楽セッションです)

つくるう会

毎月1回 13:00～

おやつや簡単なお料理をみんなで作る集まりをしています(参加費350円)。料理では『シューマイ』『揚げ春巻き』、お菓子では『クレープ』『莓大福』といろいろなものに挑戦しています。工作では、クリスマスなどイベントにちなんだ小物をつくったりしています。

子どもと一緒につくったり、子どもはボラン

写 真

イベントプログラム

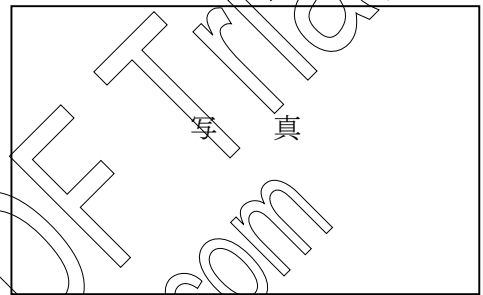


ハロウィンパーティー

10月第4土曜日 13:00~

年に一度の地域交流イベント（事前予約、参加費700円）。当日朝までに会場づくりをして、参加親子を待ちます。昼頃、アンパンマンやお姫さまなど思い思いの仮装をした子どもたちと親が次々と集合。写真撮影をしたら、お菓子狩りに出発！分室近くにお住まいの方やお店のご協力を得て、事前に戸口へ挿してもらったオリジナルの旗を目指して子どもたちと歩きます。戸口ではみんなで“Trick or Treat!”（おかしくれないといたずらする

ぞ！）戻ってきたら、ティーパーティーやゲームで楽しいひとときをもちます。土曜日のイベントということもあって、お父さんの参加もあります。（写真は、2007年10月27日のハロウィンパーティーの写真です）



ちゃいやあらんどで

ボランティアとして関わって

ボランティア 佐藤香織

ちゃいやあらんどのスタッフだけでなく、子どもや他のボランティア活動をされている方からも「さとちゃん」と呼ばれてはや7年。とにかく子どもが好き。

今、私がボランティアをしているのは「何か新しい事がしたい」と思ったのがきっかけでした。その「何か」はほんとに何でもよかったです。例えば、誰も知らなそうな言語を学ぶとか、身近な事からエコを始めるとか、一日一善とか。結局、年賀状でたまたま見た「2001年 ボランティア元年」ということばが頭に残っていたようで、出掛ける事にしました。

ちゃいやあらんどではたくさんの親子との出会いがありました。何かを学ぼうとボランティアを始めた訳ではなかったけれど、毎回いろんな事を学んだり感じたり考えさせられたりしています。

大人が悩む 子どもも悩む みんなで悩む

そして、今までを振り返ったり新しい考えが生まれたりしながら、大人も子どもも一緒に前に進んでいるんだなぁと思います。

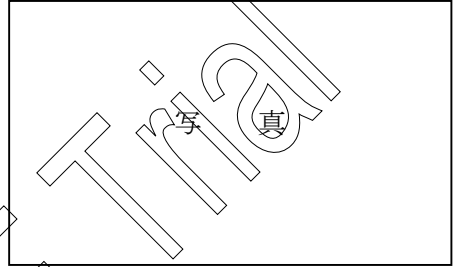
ボランティアを始めてすごく大切なものと出会えました。ほんとにラッキーでした。

インタビュー① ちैयाあらんどに来ている 親子たち

齋藤明子・森康羽（地域活動委員）

3月の木曜日、三々五々「ちैयाあらんど」に集まってきた親子たち。にぎやかに遊びまわる子供たちの間で車座になり、6人のお母さんたちにインタビューさせてもらいました。

今日来ている子供たちは1歳から3歳。今回の聞き役は、子育て終了のベテランママとまさに子育て真っ最中の旬のママ。（3月13日実施、写真はインタビューの様子）



——「ちैयाあらんど」（以下、「ちैया」と省略）に来るようになったきっかけは？

児童館の友達や公園での知り合いからの紹介が3人、やはり口コミの威力が感じられます。児童館でここのパンフを見て、新聞の折込を見て、という人もいました。でも当初中の様子が分からず、入りにくかったそうです。

近くにある、ここと同様の場所「ひなたぼっこ」からの紹介という人もいました。この中で「ちैया」一ヶ所ではなく、同時に児童館やほかの場所に行っている人が何人かいて、週2～3回の外出の機会になっているようです。

——「ちैया」に来てどんな感想を持ちましたか。

「赤ちゃんを連れていける所がほかにはないから、行ける場所ができて助かった。」「家以外に遊べる所ができたので、気持ちに余裕ができて子育てのストレスが減る。」などお母さんたちのストレス解消の場になっていることが窺えます。

他にも「家で家事をしながらだと子供をかまっていられない。子供も相手をしてほしいのにストレスがたまると。ここは、おもちゃもあるし同年代の子供もいるのでいい。ここの雰囲気は楽しめる。」「家だと自分しか片付ける人がいないが、ここだと皆で片付けるから、子供がちらかしてもモーっとならないのいい。」など。そして、そういう場だからこそ「子供を客観的にみることができる」

という感想もありました。

——お母さん同士でどんなおしゃべりをしますか。

子供のことははじめ、病院や子連れで出かけやすい所の情報交換。また、買い物や流行っていることの情報交換など、子どもと関係ないこともおしゃべりできるのが、一番のストレス解消になるとのことでした。

——児童館に行っている人も多いようですが、「ちैया」と児童館の違いって何ですか。

児童館は、広くて大勢が集まっていて幾つかのグループができています。それで話す人が決まってしまう。それに1時間半と短い。でも年代の違う子供がいるし、同じ小学校へいく子供たちが集まっているので、小学校での関係につながっていく利点がある。遊び場としては、立って遊ぶことが前提になっているので赤ちゃんには無理だけれど、もう少し大きくなると、全身を使って遊べていい、など。

一方、「ちैया」は広さも人数もちょうどいいので、家庭的な感じでしゃべりやすい。昼ごはんを食べながらでもしゃべれるし。子供が同年代なのでいっしょに育って行ける。1歳児でもここだと遊べるし、ほかの子供に会うと喜んでいる。つまり、児童館と「ちैया」は役割が違うということだそうです。

——子育ての悩みは誰に聞くんですか。

「ちゃい」にきている人、年上の子供がいる友人、姉に聞く人が多い。聞いた相手の意見がばらばらなのがいいようで、最後は自分で決めるということ。ほかには、病院での検診時に先生や保健士に聞く人、自分の母親やご主人のお母さんに聞く人もいました。

自分の母親の場合、聞いても「もう忘れた」とか「時代が違うから」と言われるので聞かないということです。子育てって、時代によって方法もところどころ変わるから、母親、保健士のいうことも違ってくる。結局は自分の判断だという意見が多かったです。

——子育ては夫婦で協力してやっていますか。

「しんどい」と言ったら子供の面倒をみてくれる、休みの日には3、4時間育児から解放してくれるなど、協力している関係もありますが、一方、ご主人は「がんばって」と口だけで励ますだけで、全面的に母親だけの育児だという声もありました。また、仕事がつくて疲れていて、休みは寝ているだけで子供とほとんど顔を合わさないという厳しい現実、父親が協力しようとしても母親とやり方が違うからか、お風呂いっしょに入るのも嫌がる子供がいるというかわいそうケースもありました。

小学生の子供を持つ人からは、若い父親のほうが育児のかかわり度が高いという意見が出ました。少し前の父親はベビーカーを押すのも恥ずかしい年代で、男性用の抱っこ紐な

ど考えられなかったそうです。

——母親同士での助け合いの形として「子育てのボランティア」などをやってみたいですか。

「面白そうだなとは思いますが仕事に戻ったらできないかな」「将来仕事をどうするか、何人生むか、など今はわからない」「まだまだ考えられない」などの意見が出ました。「条件が合えばやってみてもいい」という人も含め、やってみたいという答えも半数以上ありました。

**ご協力いただき、
ありがとうございました！**

インタビューを終えて

インタビューしながら子育ての大変だった頃を思い出しました。私はご近所のベテランママに助けてもらって仕事を続け、当時平社員だった連れ合いもよく協力してくれました。それがなかったらストレスは、かなりなものだったに違いありません。改めて「ちゃいあらんど」の意味を考えました。

そして、若いお母さんたちがこの場に来て、子育てを楽しんでいる様子にエールを送りたいと思いました。(斎藤明子)

コラム “ちゃいやあらんど”って？

「ちゃいやあらんど」は沖縄地方の方言で「ひとりじゃないよ」という意味の言葉です。ちゃいやあらんどは、2000年夏、子育て中のお母さんを中心に結成された「神戸YWCA子育て支援プロジェクト」の活動のひとつとして生まれました。ボランティアは、子育て真っ最中のお母さんから、お料理上手な年配の方、大学生や会社員まで、さまざまな人がボランティアに参加しています。

ちゃいやあらんどのモットーは、「地域で子育て」。子育てを家庭や家族だけのことにせず、子どもたちが親以外にボランティアなどさまざまな世代の人々と出会い交流することで、「いきる力」を育んでいきたいと思っています。

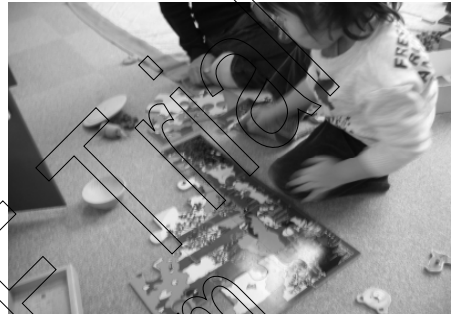
(左図は、ちゃいやあらんどのパンフレット)



「ちैयाあらんど」には、利用者でもあり、かつボランティアとしても関わってくれている方がいます。今回、ちैयाあらんどに関わるようになったきっかけや活動を通じて考えたことなどをざっくばらんに語っていただきました。話を聞いていると、初めて子育てをする親が心に抱える悩みや社会で置かれてしまう状況などが垣間見えてきました。(下の写真はイメージです)

インタビュー② 利用者として ボランティアとして

村上伊都子さんへのインタビュー



子どもが3ヶ月になるまでは外に出ちゃいけないというイメージがあって、外に出て行っていいのかなと思っていました

ちैयाあらんど(以下、ちैयाと省略)には、5年前ぐらいに、広告だったか、通りすがりだったかで見かけて来るようになったのがきっかけです。最初、うちの子は2ヶ月と月齢が低く、他のお子さんが2~3歳だったので、入れるかなと心配でした。そのとき、一人のお母さんが積極的に話しかけてきてくれたので入りやすくなり、「また来ようかな」という気持ちになって参加するようになりました。

子どもが3ヶ月になるまでは外に出ちゃいけないというイメージがあって、外に出て行っていいのかなと思っていました。でも母乳マッサージをしてくれた助産師さんに、「もうずんずん外に出なさい。家で子どもと1対1で居るよりは外に出て」と言われて、赤ちゃんを連れてい

でも来れる場所を探していました。

ちैयाに継続して来ていたのは、ちैयाが月齢の低い赤ちゃんでも連れてこられる場所だったこと、毎週開いているので定期的に通ううちに来ている人と仲良くなれたことがよかったからです。第一子をもうけてから、なかなか他のお母さんと友達になりたいけれどなれないとか…自分から急に声をかけるのも変だし、今でこそいろんなお母さんと話ができるようになったけれど、最初は本当にどうしていいかわかりませんでした。近所で友達をつくるのも難しかったり、公園で少し話せてもその場限りだったり。そういう意味では、ちैयाに継続して来ていると、知り合いが増えたり、月齢の高いお母さんからいろいろな情報をいただけたりしました。

そうしてちैयाに継続して通ううちに、ボランティアのさとちゃん(佐藤香織さん)に声をかけられたことがきっかけで、ボランティアに

も加わるようになりました。今はもう引っ越しされてしまったのですが、いいなと思う先輩ママボランティアさんがいたことや、お世話になっている助産師さんが「人のために何かをすると自分がぐっと成長しますよ」と言われてがんばる気持ちが芽生えたことなどもあって、ボランティアを始めましたね。子育て以外で、今しかできないことをしたいなあ…という思いもありました。

ネットで調べたらなんでもわかる、情報はいっぱいあふれているのだけど、実際に必要な情報というのはうまく得られない

私たちが一番知りたいのは、どの病院がいいとか、ミルクのことからうんちのことまで、こういうときはどうしたらいいのかとか、いろんな情報です。ネットで調べたらなんでもわかる、情報はいっぱいあふれているのだけど、実際に必要な情報というのはうまく得られない。あとは失敗談とかもいっぱい聞き、ほっとした部分もあります。特に、地域の情報が得にくいです。

現在のちゃんにさらにあればいいなと思うのは、読み聞かせなどですね。読み聞かせだけではなくて、この本に関連してこんな本があるよとかこの作者の背景とか知れたらいいなと思います。例えば、これぐらいの子にはこういう絵が見えているとか、こういう絵本を選んだほうがいいとかいうのが年齢に応じてあるらしいのです。いざ本屋に行ったら「この絵本は〇歳が目安」とか書いてあるけれど、あまりにも多くて選べません。子どもに読む前にお母さんが興

味深々なんで感じの活動ができればいいですね。

あとは、お母さんのなかで「自分が英会話をしたいけれど子どもがいるからできない」という人がいたりします。以前、「YWCA で子どもの英会話の教室を」という話が出たときに、「私が習いたい」「お母さん向けはないの？」という声がありました。

今、スキー場などで、子どもがスキー場の樹氷などで化学実験などをして遊んでいる間、親がスノーボードを楽しめる場所があります。預けて、子どもも楽しみつつ自分も楽しめたらいいですね。これからほそいったサービスもどんどん増えてくるんじゃないかなと思いますけれど。



子育てだけだと、自分の世界が狭くなってしまふ。取り残されるわけではないけれど、独身時代に比べたら世間が狭くなってしまふ

それと、お母さん以外の人と話せる場というのがあったらいいんじゃないかなと思いますね。子育てだけだと、自分の世界が狭くなってしまふ。取り残されるわけではないけれど、働いていた独身時代に比べたら世間が狭くなってしまふいますね。なかなかひとりでは外出できない。

よく話を聞いていて思うのは「私だっている
いろいろやりたい、でもやっぱり子どもはほうって
おけない」というのが多くのお母さんの本音な
な、ということです。子どもの為には母は一生
懸命になれるけど、自分のこととなるとおろそ
かになる。身体面でも精神面でも後回しになっ
てしまいます。自分が心の中に棒をつくってし
まっているのが悪いのかもしれないのですが…。

これは大きくいえば、社会全体の問題ですね。
どうしても母親は子育てをしないとイケないとい
う感じで。もっと早くお父さんが帰ってきて
お互いがいろいろできるようになればと思うの
ですが、実際は難しいですね。「じゃあ預ければ」
というけれど、実の親だったらまだしも義理の
親に預けるといのは抵抗がありますね。いい
よ、とってくれますけれど…。罪悪感という
のかな、子どもを預けてまで自分が楽しむのは
悪いかなど思ってしまう。

子育てしている友達と触れ合う機 会はあったのだけれど、働いて いる間は全然気づかなかった

現在のちやいはボランティアが少ないのが大
変なので、新しく関わってくれる人があるとう
れしいです。次々と新しく人が入って出て行く
かたちにならないと、活動の継続は難しいと思
います。

あと、赤ちゃんが小さくて外に出られない
お母さんや、不安を抱えているお母さんたちに
対するサポート。新生児訪問というのがありま
すけれど、希望があればもっと頻繁に、1週間
に1回訪ねるといようなシステムがあればい

いなと思います。

ニュージーランドの人と話をしていたら、「看
護師さんがちよくちよく訪ねてこないの？」と
言われました。お母さんが外に出なかつたら、
ずっと家に居たまま密室育児になり、いらいら
するし、外のこともわからない。だから、妊娠
中から人間関係がいろいろできればもっとい
かな、と思いますね。

独身時代、子育てしている友達はあるにはい
て、そういう人と触れ合う機会はあったのだろ
うけれど、働いている間は今考えているような
ことには全然気づかなかったですね。やっとそ
のときになって気づくという感じです。どれだ
け出発しにくいかな…ベビーカーを押すにしても
段差があり、バスに乗ろうとしてもベビーカー
をたんで赤ちゃんを抱っこしないとイケない。
もっと出かけやすくなってもいいと思いますね。
これからずんずんお母さんや赤ちゃんに優しい
世の中になればいいなと思います。



村上伊都子（むらかみ・いつこ）
ちやいやあらんどの利用者でもあり、ボランテ
ィアも行っている。2児（4歳・2歳）の母。

インタビュー実施：2008年3月6日（木）
聞き手・記録：山本かえ子（神戸YWCA職員）

DocuCom PDF Trial
www.pdfwizard.com

活動近況と 来年度への抱負

そらとぶうさぎ

松本 光代

しょうがいを持つ子と家族は、家の中にこもるのではなく、家の外に楽しむ場があり、どんどん社会に出ることができたら良いね。そんな想いから始まったそらとぶうさぎの活動も早5年がすぎました。

状況確認の訪問活動から外出の動機付けを目的とした分室や野外でのレクリエーション活動へと変遷。子どもたちの成長に伴い、活動の内容もただ遊ぶだけでなく、自分たちで作った物で遊ぶ、というように行程や意味づけを考えるようになりました。しかし親とボランティアの想いは毎回うまくいくわけではなく、一進一退を続けています。

月日を経て変わってきたのは、子どもと親、ボランティアの関係だと振り返ります。互いの違いに目を向け一緒に楽しく時を過ごそうと歩み寄った5年でした。だからこそ毎回の活動に発見があり、反省があるのでしょう。子どもの成長に伴いボランティアが場の設定等において限界を感じ、対象者に参加の卒業を提案したこともありましたが、話し合いのもと親と子にニーズがあることを教えてもらい、一緒に歩んできました。

今後も親とまたボランティア間の話し合いを大切にしながら、活動を続けていきたいと思えます。そしてこの対話の中に子どもたちが積極的に参

加してくれる日を楽しみにしています。

わいわい亭

佐治 雅子

先日、わいわい亭で「私は火曜日デイサービスで水曜日がわいわい亭、金曜日がお食事会と週に3回もYWCAの分室に来ているのよ」「私も火曜日もここに来ているわ」と楽しそうに話してくださるのを耳にした。そういえば歩行が困難になってきた利用者が今ではわいわいランチを利用した在宅生活を継続している。

わいわい亭もオープンして7年目を迎える。多くの方が利用してくださっているが、残念ながら歩行等々に不調を訴えられ、分室まで来られなくなった方も多い。そのたびに、「送迎ができればいいのに」「さびしいね」と感じてきた。少しでも長く関わってほしいと望むが、歩行が困難になった方々を迎える体制はわいわい亭にはない。結局そこでYWCAとの関係が切れてしまっていた。

しかし最近では、わいわいランチ、わいわいデイルーム、お食事会（月1回）と他の曜日の分室サービスを利用する方が増えてきた。利用者の体調の変化やニーズに即して、分室を活用してもらい、さらに分室で受け皿がなければ地

域社会資源の情報提供……など、分室を中心に地域福祉の充実に貢献できると考える。

分室地域活動の輪!を広げることに、新たな分室活動の展開の気配を感じる!

わいわいランチ 井上みち子

08年2月の配食数は過去最高、昨年同月より百も多い数です。前号のわいわい通信には「今より10食ほど増えても(1か月で二百食増)配達時間や食材費などはあまり変わらないのではないかと書きました。その半分の増加なら収益が上がって嬉しい!はずだったのですが、現実……違いました。とっても大変(化)です!

食材は細切れに仕入れるわけではないので費用は増えました。

容器洗浄、調理、盛りつけ、配達のとれにも時間がかかり、常に時間に追われていて、利用者さんへのお届けが遅いこととおしゃべりができなくなっていることが気になります。利用者さんの役にたっているとの思いがこのボランティア活動を支えているので、2月の状態では活動意欲が低下するばかりでした。

そこで、ランチ・ボランティア仲間のみなさんの気持ちをきいて提案などを出し合うミーティングを開催中。仲間のみなさんと交流でき、少し元気になりました。そこでは配達のはじめは時間厳守で、そのための各部処の工夫やアイデアがいくつか出されています。いつもボランティア大募集!だけど特に車に乗れる人がきてほしいし、助成事業先にランチは公共性の高い福祉活動であることをもっとアピールしようと

思います。

先日、お誕生日を迎えられた利用者さんから「心のこもったカードやごちそうをいただき嬉しかった」とのお言葉をいただき、また少し明るい気持ちになりました。やっぱり「人とのつながり合い(愛)」がボランティア活動の元気のもとです。

夜回り準備会 村川 奈津美

2007年度の夜回り準備会は、活動メンバーが増えて、いろいろなことに新たに取り組めるようになりました。通常の夜回り活動への参加者も増え、そこで出会うひとの抱える問題のフォローのために、昼間に動くことが以前よりもしっかりできるようになったり、役所や教育委員会への申し入れや、活動報告書の作成もしっかり行うことができました。また、深夜の時間帯に寝ているひとがいるという情報を得、新たに夜中回りという取り組みを始めました。3月には年度末合宿を行い、生活保護についての勉強会を行うことができました。

さらに、2007年2月の長居公園テント村の代執行に対する抗議行動に何人かのメンバーで参加し、「居場所」や自分たちの活動について改めて考えることができました。

しかし、保護を受け、居宅になった後まではなかなかフォローができていなかったり、追いつたようなことを受けられ、私たちに何の相談もないまま立ち退かれた方もいました。3年間ほど訪問を続けていたのに、いざという時に相談してもらえないだけの関係性が築けていなかったということはショックでした。また、大阪長

居での活動に精力的に取り組む以前に、足元での活動がしっかりできていなかったということは残念で仕方ありません。

08年度は、そのようなことを少しでも無くしていければ良いなあと思います。

わいわいデイルーム

川上 和恵

昨年度はメンバーのみなさんお変わりなく、お元気にデイルームに足を運んでくださいましたことをうれしく思っています。

おしゃべりをしながら、みんなで楽しみながらできることを前提に、軽い身体運動や頭の体操、音楽などで心身共に活性化できるようなプログラムを組み込み、それが少しずつ定着してきた一年でした。

老いは必ず誰にもやってきます。老いをどう生きるか、それはその方の考え方や性格で随分変わってくると思います。自分の身体と向き合い、少しでも長く健康で生き生きと今の生活を維持するために身体を動かす、頭を

使う、外へ出て人と接するなどといった事を意識してすることはとても大切だと思います。デイルームのメンバーもそういった意識をもって何にでも積極的に頑張っていच्छる方が多くおられます。

またこれからは団塊の世代の方々が年を重ねてますますそういった介護予防という点でのニーズが求められてくる時代だと思います。

デイルームはみなさんにとって憩いの場であり居心地のいい空間としてあってほしい。そしてそれと同時にみなさんの意識にしっかりと応えられるよう充実したサービスを提供し、地域でいつまでも豊かに暮らせるよう今後も心身の健康づくりのお手伝いできればと思っています。



あの人に会いたい！

⑤わいわい亭・夜回り準備会

村川奈津美さん

ここでは毎号一人、神戸YWCA 地域活動委員会で活動している会員・会友・ボランティアを紹介していきます。

● YWCAの活動に参加するようになったきっかけは？

最初に関わるようになったのは夜回り準備会でした。4年前、神戸大学に入学し、学生震災救援隊*1に入りました。そこが毎年実行委員会をしている灘チャレンジ*2という地域のお祭りで、毎年プログラムに芝居があり、その年は野宿している人のことについて取り上げることになりました。私も役者として出ることになり、それがきっかけで夜回り準備会の活動に参加するようになったのです。

自分には野宿している人への偏見はないだろうと思っていたのですが、活動で出会う野宿の人が普通のおっちゃんと同じだと感じ、自分が「普通の人」だと思っていなかったことに逆に衝撃を受けました。

わいわい亭に参加し始めたのは3年前からです。私は、わいわい亭に関わる前から、NAC*3という、毎週土曜日復興住宅のお年寄り向けのお茶会を開催する学生グループにも参加していました。すると、救援隊の先輩たちから、NACの活動について「理念や目的なく活動するのはどやねん」と批判されました。そこで、高齢者のことをもっと知りたい、手近に現場がないかと探していたら、神戸YWCA内で活動しているわいわいデイルームを見つけたのです。最初はデイルームに参加していましたが、火曜日に大学の授業が入ったので水曜日のわいわい亭に参加するようになりました。

● わいわい亭に来るようになって、どんなことを感じられましたか？

NACは学生ばかりの活動だったのですが、わいわい亭では利用者やボランティアもさまざまなので、私が来ると「若い人が来た」と利用者やボランティアから珍しがられ、ちやほやされました。それをうれしく思う反面、若い人だからといってありがたがられるのは変だなとも思いました。一方で、水曜日わいわい亭の活動を終えて授業に出席するために大学に戻ると、若い人ばかりの大学の空間に違和感を感じたりしました。

ありがたがられたらいけない、こちらが訪ねていったり迎えたりするよりも、「集まる」活動のほうが自然ではないかと思います。例えば、公園を散歩してお年寄りと同じベンチに座ったりしても、感謝されることはない。けれど、活動の場面になると、お年寄り

に常に感謝される状況になってしまう。

以前、NAC の活動中、お茶を出すのが遅れたら、参加しているお年寄りから「遅い」と言われたことがありました。後輩のなかには、「喫茶店の店員のように扱われてイヤだった」という声もありましたが、私はむしろ「高齢者に振りまわされる」ような、お互いに主張しあえる関係のほうがいいように思ったりします。

● 夜回り準備会に参加して、どんなことを感じられましたか？

土曜日は、昼に NAC の活動があった後に夜回り活動に参加しています。特に、大学 2 年生から 4 年生半ばまでは NAC のリーダーをしていたので、正直なところ夜の時間になるとくたくたになってしまい、夜回り活動にはそんなに深く関わっていませんでした。

夜回り活動により深く関心を持つようになったのは、長居公園での強制代執行^{*4}の現場のスクラムに参加したことが大きかったです。そのときのことは、いまだに自分の中ではまとまっていませんが、居場所が壊されることに違和感を持ったり、排除する側に同い年ぐらいの女の子が見えて、もしその子と違う場所で出会っていたら友達になれたかもしれないのに…というようなことを考えたりして、正気が保てませんでした。

このとき痛感したのは、個と個の人間関係を築くのみで留まっていけないということです。例えば、NAC の後輩たちはお年寄りに対して「やってあげている」感覚はあまりないのですが、個と個の関係を築き自己満足するところで留まっているように感じます。そうすると、NAC のメンバーの間で「学生に何ができるのか」といったことを議論すれば、「できることはない」という結論に陥りがちです。これはある意味では仕方がないと思うのですが、自分に関わっている活動の背後にある問題や、学生が何もできないということ自体に対して「おかしいなあ」と考える、といったことがあまり感じられません。そうとはいえ、実際に踏み込むと大変なので、「できないことはできない」「踏み込めない」というのはそれはそれでいいとは思いますが…。みんなですり合わせるのが大事なのではないでしょうか。

● YWCA の若手会員として、先輩会員へ何かメッセージがあれば。

みなさん、年齢に関わらず、家庭や仕事と両立させながら活動しているのはすごいですね。そして、会員同士、お互いの活動に対して支持してくれている、見てくれているのを感じ、ありがたいと思っています。会員になりたての頃、知らない間にいろいろな人が私のことを知っていて、「有名人」のようになっていたのにはびっくりしました (笑)。

●最後に、今後の自分の展望など、メッセージをお願いします。

お年寄りにしても野宿している人にしても、生きにくそうにしているのはいやだなと思います。すべての人が生きやすい社会に変えていきたいですね。「ここに居たい」という場所がなくなっていくことを、長居公園の強制代執行の現場で体感し、衝撃を受けました。わいわい亭に来てくださっているお年寄りと接していると、「年とったらあかんわ」ということを耳にします。実際私も年をとったらそう言うのかもしれませんが、できれば、お年寄りにそういうことを言わせる社会にしたくない。「ここに居たい」と思う場所で暮らせる社会、「これでいいかな」と感じながら人々が生きていける社会にしていきたい、と思います。

【注】

- * 1 神戸大学の学生サークル。阪神・淡路大震災時の救援活動に端を発し、さまざまなボランティア活動・地域活動を行なっている。
- * 2 震災復興を祈念して始められた、学生・地域団体の協働によるお祭り。通称・灘チャ。毎年6月に神戸市灘区の都賀川公園で開催され、神戸大生が運営の中核を担っている。
- * 3 NACの注。
- * 4 2007年2月5日、大阪市東住吉区の長居公園で、野宿している人たちが暮らしていたテント群（長居公園テント村）が行政代執行法にもとづき、大阪市によって強制撤去された事件。このとき、村川をはじめ、夜回り準備会や救援隊から数名が抗議行動に参加した。そのときのことを振り返って有志で座談会を行い、その模様が『神戸YWCA 夜回り準備会活動報告書 Vol.3』にまとめられている。

インタビュー：山本 かえ子



ありがとうございました!!

地域活動委員会へのご寄付等ご協力下さった方々

(2007年9月1日から2008年2月29日まで、順不同・敬称略)

守屋 洋三	牧野 哲	保坂 須美子	中田作成・洋子
後藤 安子	村上 美津子	堀 伸夫	田中 祥子
藤本 俱子	西山 秀樹	弓の木市管住宅むつみの会	
吉田 英三	辛島 道子	清水 威秀	岩崎 滋 東 昌弘
鹿嶋 節子	関西学院宗教活動委員会	捜真女学校中学部・高等学部	

皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

*万が一お名前がもれています場合にはご一報いただけましたら幸いです。

今後も私どもの活動にご支援・ご協力いただけると嬉しいです。

お知らせ

地域活動委員会より

- ・ 新グッズ、マンダナ販売中！グッズのはがきも引き続き好評販売中！

全グループ

- ・ ボランティア募集！私たちと一緒に地域に根ざした活動をしませんか？

各グループより

- ・ トーンチャイム貸し出します。(応相談) ちゃいやあらんど
- ・ お米を募集しています。 夜回り準備会
- ・ 毛布など物を保管できる空きスペースを探しています。夜回り準備会

DocuCom PDF Trial
www.pdfwizard.com



発行：神戸YWCA 地域活動委員会

住所：〒651-0093

神戸市中央区二宮町 1-12-10

電話：078-231-6201 (本館)

078-221-5111 (分室)

FAX：078-231-6692

URL：<http://www.kobe.ywca.or.jp/kobe/>

E-mail：office@kobe.ywca.or.jp

郵便振替口座

番号：01100-0-10298

名義：神戸基督教女子青年会